

## ■ 修士論文要旨

# 国際物流における大都市港湾の開発戦略に関する一考察

— 現代中国の主要港（上海港と香港港）を事例に —

A Study of international distribution strategies of big-city port

— The cases of the main ports in modern china (Shanghai and Hong Kong) —

神奈川大学大学院 経営学研究科  
国際経営専攻 博士前期課程

田 莉

TIAN LI

## ■ キーワード

国際物流 上海洋山港 香港港 国内間フィーダー輸送

国際物流は国際貿易に伴う産物であり、国際貿易の輸出入の多少は国際物流の荷動き量に大きな影響を与える。国際物流の視点からみると、20世紀の前半は大西洋中心の物流であり、20世紀後半はアメリカ経済の主導的役割と日本経済の急成長で日米貿易繁栄して物流の中心は大平洋側へ移った。ここ十数年来の国際物流はアジア地域の主流となった。港湾とは海陸輸送の結節点として国際貿易に伴う取引商品の海上輸送の窓口であり、国の地域経済、交通、産業などの諸活動を支え、その経済発展と国民生活に寄与している。近年各地域における経済発展を促進する分野があるが、とりわけ、港湾物流は大きく寄与している。東アジアに属し、最大の市場を持つ中国の経済発展は1980年代から急速な成長を遂げている。中国国内において物流という概念が現れたのは1979年で、?小平が改革開放政策を提唱し、外国に対して門戸を開く動きが出てからである。?小平が発表した南巡講話で、1992年から一層に市場経済化が進展した。2001年12月、中国はWTOに加盟

し、世界のスタンダードの中で対等に戦っていく、世界の舞台に躍り出る第一歩を踏み出したのである。中国市場の開放政策は沿海部を中心に「点から線へ、線から面へ」であるが、国際物流と同様に国内物流事業も非常に注目されるようになり、第三次産業の中核産業となった。近年、輸出入額は急増しているが、中国の経済発展は著しくである。

国際物流において地理的に優位な位置のもつ港湾を有する都市では、港湾のコンテナターミナルのインフラ整備や港湾の運営、管理政策、船社誘致戦略などが重要な課題になっている。上海港は19世紀半ばに對外的に開放された中国最大の港湾で、地理的位置は中国南北沿岸、長江流域輸送ならびに国際輸送の中枢であり、世界約160の国と地域の約400の港湾と結ばれている。1990年以降、上海が金融、貿易の中心として発展するに伴い、コンテナ取扱量も飛躍的に増加した。現在建設されている洋山港は、新たな大水深コンテナターミナルとそのターミナルを結ぶ東海大橋の整

備が進められており、洋山新港プロジェクトと呼ばれている。予定2020年の完成時には、50バース、年2000万TEUの巨大港湾基地となる。

一方、百年間イギリスの植民地であったの歴史を持つ香港は、1997年7月1日、中国に返還され、中国の特別行政区となった。しかし、当時、世界経済における国際センター、貿易センター、アジアで重要な中継貿易港としての地位を維持できるが、一国二制という形態が共存している。この十年をみると、対国内ビジネス窓口として、また、国際金融、港湾物流拠点センターとしても香港の機能は国内本土の経済発展によってますます強固なものとなった。香港は目覚しく経済成長を遂げであり、特に港湾（空港にも含め）建設開発とアジアではコンテナ貨物取り扱い扱量がドープであり、その地位を依然として占めている。

また、香港港は後背地に巨大的な国内市場をもちおり、近年、とりわけ日本、欧米および台湾からの中国向け投資が増加し、海上貿易における中継貿易港として貨物の取り扱い扱量が年々増加している。

東アジアは21世紀には国際物流における国際コンテナ輸送がより一層に活発となり、各国も国家的なプロジェクトとして港湾の整備や開発を積極的に進めている。港湾建設とともに、国際物流輸送の競争力の強化と拠点港湾としての地位を確保するために港湾整備に加え管理運営政策にも積極的に取り組んでいる。上海港がロジスティクス・ハブ港を目指す課題は山積みしている。また、上海港の利用者に対するメリットを高めるための物流処理や通関手続きなどに関するソフト面での支援と改善も課題である。

国際物流における相手国及び国内各港の厳しい競争の中で、ハブ港としての上海港と自由貿易地域の特徴を持つ中継貿易港として香港港は今後の対応、及び港湾管理、並びに港湾建設などが今後の課題である。

本論文は国際物流における中国近代大都市港湾の開発と建設発展状況及び中国各主要港湾の現況、特にハブ港としての上海港と中継貿易港としての

香港港に視点をおいて、港湾の発展状況及び開発建設、並びに管理運営、そして今後の課題などについて考察し、大都市港湾物流としての役割及び動向について検討するものである。本論文の構成は以下の通りである。

第I章は、国際物流の産生、歴史、その発展、現在の輸送手段および技術の進化状況について考察し、国際物流における港湾の地位と役割を分析する。

第II章は、国際物流における中国国内の物流発展経緯と各輸送形態の現状と動向を論述し、経済発展に伴う、華南経済圏におけるコンテナ港の建設と沿海各港湾間競争及び国内港湾貨物取扱量などについて考察する。

第III章は、国際物流における中国港湾の発展歴史と港湾の開発建設、運営政策現状を論述し、現在の中国海運市場の状況及び日中海運の現状について言及する。

第IV章は、国際化大都市における国際的なハブ港を目指す上海洋山深水港の建設開発戦略及び建設の目的について解明し、新港湾の役割について論述する。

第V章は、中継貿易港として重要な国際経済の中心に地位する、香港港の地位と役割およびコンテナターミナルの整備とフィーダー輸送の将来性について論述する。

終わりとして、中国港湾と国際物流の一層の進展を図るため、両港間（香港港と上海港）の相互の依存と協調体制について考察する。両港が将来に向けて相互に良い影響を与え合うことが深く望まれるものである。